

2011年度 学部共通科目

「科学と人間」

第4回(5月13日)

[http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/
shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html](http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html)

今日の予定

★前回の小テストの解答, 前回までの授業へのコメントについて(20分)

☆第3回講義(渡部):「遺伝子操作と生殖補助技術」(60分)

★マークシートを利用した確認テスト(10分)

前回の小テストの 解答

小テスト(1)

★ナチスの「積極的」優生政策の事例として紹介した「レーベンスボルン協会」についての以下の記述のうち正しいのは？ **正答率≒89.2%**

- ①婚約者たちに婚姻前検診を勧めていた。 ←9名
- ②「レーベンスボルン」とは「命の選択」という意味である。 ←4名
- ③人種論的にみて健全な孤児や私生児を集めて手厚く養育した。
- ④占領地の外国人の子どもを拉致し、強制労働をさせた。 ←2名

小テスト(2)

★進化論を人間社会に適用しようとし、自然淘汰によって社会は改善されていくと考えた思想は、何と呼ばれているでしょうか？

95.0%

- ①人種進化論 ←3名
- ②社会ダーウィン主義
- ③社会優生学 ←4名
- ④人種プレッツ主義

小テスト(3)

★20世紀初頭のドイツの優生学に関する以下の記述のうち正しいのは？ **40.3%**

- ①生活環境改善のため、特に公衆衛生が重視されていた。 ←36名
- ②資本主義の下での弱肉強食は「自然淘汰」の理念からみて適切だと評価していた。 ←39名
- ③福祉政策による人為的な生命維持には批判的であった。
- ④遺伝より教育がより重要だと考えていた。 ←9名

小テスト(4)

★第一次世界大戦後，ナチス政権成立までの時期のドイツの政治や

優生学をめぐる以下の記述のうち正しいのは？

95.0%

- ①福祉の充実が優先課題とされ，全国民が同じ程度にその恩恵を得た。 ←1名
- ②福祉の充実が優先課題とされたが，財政難から全ての国民の福祉が一様に低下した。 ←2名
- ③人種衛生学が注目を集めたが，やがて危険視され衰退した。 ←3名
- ④財政危機のため福祉政策の対象者の選別が始まった。

小テスト(5) 84.2%

★断種法についての以下の記述のうち正しいのは？

- ①世界初の断種法は、アメリカ合衆国で成立した。
- ②ナチスの断種法の影響力は強く、後にそれを参考にアメリカ合衆国やスイスなどで、同様の法律が作られた。 ←7名
- ③ドイツではナチ政権成立以前にいくつかの州で断種法が成立し、施行されていた。 ←12名
- ④ナチスの断種法を除けば、手術に際して本人の意思が尊重されていた。 ←3名

平均

80.7%

★前回よりは低くなりました★

メールでのコメントを読んで
～補足説明を少々～

ナチスの優生学

★人道的には誤りでも、政策的には間違っていないのでは？ やむを得ないのでは？

非難することはできないのでは？

— いまも人間に優劣をつけ、差別が行われているから

— 自然淘汰の考えからして；人類全体の未来を考えると

— 戦争が近づいている時代には

— 国家財政が厳しい情勢の下では

ここで考えておきたい点

★「自然淘汰」は人間社会にも
適用されるべきか？

ここで考えておきたい点

★「厳しい」時代には、「弱者」は切り捨てられねばならないのか？

そもそも「強者」と「弱者」、「健常者」と「障害者」を区別する基準は？

どこのだれもが、いつでも当事者になりうるが・・・

その基準や選別をすべて国家に委ねてよいのか？

ここで考えておきたい点

- ★財政難，不況，高齢化の下
では，社会福祉の負担・コス
トと配分の問題が先鋭化する

ナチ・ドイツの時代の民衆の意識

★当時の人々の間から、優生政策や人種主義に対する反発や批判は出てこなかったのか？ 黙って従っていたのか？

ここで考えておきたい点

- 1) 疑問に思う人は一定数いた。国外へ出て批判する人, 国内で抵抗した人も少数いた。
 - 2) 人種主義・優生政策の疑似科学性
 - 3) 大衆向けパンフレット
 - 4) 宣伝用ニュース映画
- ※2)3)・・・ナチ・ドイツに限らない。

さらなる論点(?)

★強制断種と「安楽死」

—「安楽死」は優生学なのか？

★ナチスの歴史の「相対化」について

★健康や生殖は個人的なことなのか？

—福祉国家と「国民の身体/健康」